

尼崎市事業所景況調査

【 2019 (平成 31) 年 1-3 月期 】

全産業の業況判断 DI は悪化 製造業で大幅な悪化、非製造業は横ばい

<調査結果のポイント>

- ◎ **業況判断 DI** 製造業は、【大企業】【中小企業】ともに 30 ポイント台の大幅な低下。
- ◎ **出荷額 DI、収益 DI** 製造業で規模、業種を問わず大幅に低下。特に大企業の収益。
- ◎ **従業員過不足 DI** 従業員の不足感が依然として高い（製造、建設、卸売、サービス）。

<主要指標の結果概要>

- (1) **業況判断 DI** は、▲16.6 (11.6 ポイント低下) で悪化。来期はやや改善の見通し。
 産業別では、製造業で▲12.4 (34.9 ポイント低下) で大幅な悪化、非製造業で▲18.5 (0.8 ポイント低下) で横ばい。製造業の規模別では、大企業で▲7.1 (33.7 ポイント低下)、中小企業で▲13.1 (35.1 ポイント低下) でした。非製造業では、建設業で▲9.4 (7.0 ポイント低下)、卸売業で▲8.7 (8.7 ポイント低下)、小売業で▲42.0 (5.4 ポイント上昇)、サービス業で▲13.4 (0.5 ポイント上昇) でした。
- (2) **出荷額・売上高・完成工事高 DI** は、▲17.7 (12.6 ポイント低下) となり、マイナス幅が拡大。
- (3) **売上単価・客単価 DI** は、▲9.5 (前期と同値) で、横ばい。
- (4) **(原材料) 仕入価格 DI** は、33.9 (1.3 ポイント低下) で、やや低下。
- (5) **在庫水準 DI** は、2.2 (4.3 ポイント低下) となりました。これは「過剰」と回答した事業所の比率がやや低下し、「適正」の比率がやや上昇したためです。
- (6) **収益 DI** は、▲20.0 (4.3 ポイント低下) で、マイナス幅がやや拡大。
- (7) **資金繰り DI** は、▲13.9 (0.1 ポイント低下) で、横ばい。
- (8) **従業員の過不足 DI** は、▲44.2 (1.6 ポイント上昇) となり、不足感がやや緩和しました。これは「不足」と回答した事業所の比率がやや低下し、「適正」の比率がやや上昇したためですが、依然として従業員の不足感が高い状況にあります。
- (9) **設備投資を実施した企業割合** は、23.8% (1.5 ポイント低下) となり、やや低下。来期はやや上昇の見通しです。

注 1：DI は景気動向指数「デフュージョン・インデックス (Diffusion Index)」の略。「増加」(または「上昇」「好転」「過剰」) と回答した企業の比率から「減少」(または「下降」「悪化」「不足」) と回答した企業の比率を差し引いたものです。

注 2：() 内は前回調査との差を示します。

<調査要領>

- (1) 調査時点：平成 31 年 2 月 13 日
- (2) 調査方法：アンケート用紙郵送による
- (3) 業種別回収数、回収率、配布数：右表のとおり
- (4) 全体の有効回収率：34.5%
- (5) 事業主体：尼崎市
 調査主体：(公財) 尼崎地域産業活性化機構

業種	回収数	回収率 (%)	配布数
全産業	345	34.5	1,000
製造業	113	42.6	265
大企業	14	37.8	37
中小企業	99	43.4	228
化学	18	52.9	34
鉄・非鉄	34	47.2	72
一般機械	29	46.0	63
電機機械	13	37.1	35
その他	19	31.1	61
非製造業	232	31.6	735
建設業	32	41.0	78
卸売業	23	40.4	57
小売業	50	29.4	170
サービス業	127	29.5	430

<本資料の問い合わせ先>

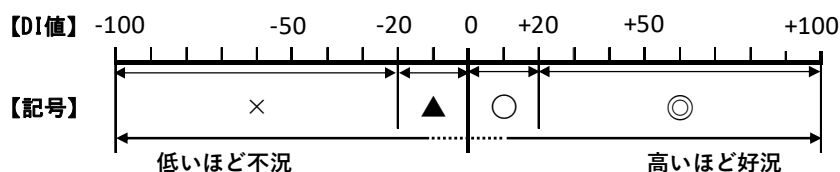
- 尼崎市 経済環境局 経済活性化対策課
 担当：和佐 連絡先：06-6489-6670
- (公財) 尼崎地域産業活性化機構 調査研究室
 担当：宮崎、井上 連絡先：06-6488-9501 (代)
<http://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

■景況調査結果の総括（平成 31 年 1-3 月期）

業種 項目	全産業 (総計)	製造業			非製造業				
		合計	大企業	中小企業	合計	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回 業況判断 DI値 ※1	▲ -16.6	▲ -12.4	▲ -7.1	▲ -13.1	▲ -18.5	▲ -9.4	▲ -8.7	× -42.0	▲ -13.4
前回との 差 ※2	↓ -11.6	↓ -34.9	↓ -33.7	↓ -35.1	- -0.8	↓ -7.0	↓ -8.7	↑ 5.4	- 0.5

表のよみ方

※1：「業況判断 DI 値」(=「好転した割合」-「悪化した割合」)は、下図のとおり記号化しました。



※2：「前回との差」は、前回(H30.9-12月期)のDI値との差を、下表のとおり記号化しました。

記号	↓	↓	↓	-	↑	↑	↑
意味	大幅な下落	下落	やや下落	横ばい	やや上昇	上昇	大幅な上昇
DI値の差	-20.0以下	-20.0超～ -5.0以下	-5.0超～ -1.0以下	-1.0超～ 1.0未満	1.0以上～ 5.0未満	5.0以上～ 20.0未満	20.0以上

■産業別の概要

【製造業】 事業所の業況判断 DI は▲12.4 (34.9ポイント低下)で、大幅に悪化しました。「出荷額 DI」「収益 DI」はともに 20ポイント以上の低下で、大幅な悪化です。また、「資金繰り DI」も悪化しました。「売上単価 DI」は上昇し、「原材料仕入価格」はやや低下しました。「設備投資」実施割合は低下しましたが、来期は上昇する見通しです。「在庫水準 DI」はやや上昇しました。「従業員の過不足 DI」はやや上昇しました。これは「不足」の回答比率がやや低下したためですが、依然として不足感が高い状況です。**来期業況は改善する見通し**です。

<規模別の業況判断 DI> 【大企業】【中小企業】ともに 30ポイント以上の低下で、大幅な悪化です。**来期業況は、【大企業】は悪化、【中小企業】は改善する見通し**です。

<業種別の業況判断 DI> 5業種すべてで悪化しました。特に【化学・プラ他】【鉄・非鉄・金属】【電気機械】【その他】は 30～40ポイント台の低下で、大幅な悪化、【一般・輸送機械】も悪化しました。**来期業況は、【化学・プラ他】【その他】は大幅な改善、【一般・輸送機械】は改善、【鉄・非鉄・金属】【電気機械】は悪化する見通し**です。

【非製造業】 事業所の業況判断 DI は▲18.5 (0.8ポイント低下)で、横ばいでした。「売上高・完成工事高 DI」はやや悪化しましたが、「収益 DI」「資金繰り DI」はやや改善しました。「売上単価・客単価 DI」はやや低下し、「(原材料)仕入価格 DI」もやや低下しています。「設備投資」実施割合は横ばいで、来期はやや上昇する見通しです。「在庫水準 DI」は低下しました。「従業員の過不足 DI」は横ばいで、依然として不足感が高い状況です。**来期業況は横ばいの見通し**です。

<業種別の業況判断 DI>

【建設業】▲9.4 (7.0ポイント低下)となり、悪化。来期業況はやや改善の見通しです。

【卸売業】▲8.7 (8.7ポイント低下)となり、悪化。来期業況は悪化する見通しです。

【小売業】▲42.0 (5.4ポイント上昇)となり、改善。来期業況は改善の見通しです。

【サービス業】▲13.4 (0.5ポイント上昇)となり、横ばい。来期業況はやや悪化の見通しです。

調査結果の詳細は、右記ホームページをご覧ください。<http://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>